

Soul Reclaim Device (A portrait of my departed sister)

はじめに、キャプションステイトメントより

Soul Reclaim Device (A portrait of my departed sister) は、写真を水に直接印刷し水槽の中でその写真の再現する装置です。私は「魂再生装置」という意味付けをしています。約二十年前に死別した私の姉の写真を、パソコンから水槽上部のインクジェットプリンターに転送し、プリンターの出力部分に設置された水槽の水の膜に印刷する構造で、三十分一度動きます。

インクジェットプリンターから出力されたインクは、元来の写真通りに水の膜に印刷をし、インクの自重でゆっくりと時間をかけて水の中に落ち、溶けていきます。

亡くなった人の写真を水にプリントすることで、もう存在しないものが水の中でゆらゆらと流体として視覚化され、同時に溶けていくことで、その故人の存在証明のようなものを、刹那的に表現できればと思います。

水槽のガラス面の縦横の比率は、4×5の写真版の比率と同じ比率にしています。

今年、ずっと継続で作っている作品で、水槽の上についているプリンターにパソコンから画像を転送すると（普通プリンターって紙にプリントしていきますけど、その機械は、）水槽の水の上に引き上げて、本来紙が入るところに薄い水の膜を張るんです。で、その上でプリンターヘッドがズーっと行ったり来たりして、プリントしていきます。普通の、写真のように。その水がゆっくり下に落ちていって、写真が徐々に水槽に入り水の中で消えていくという写真作品です。僕にとって彫刻でもあり、写真をその場でプリントする機械でもあるので、その Soul Reclaim Device っていうのは魂再生装置と呼んでいます。

これなんでその作品を作るようになったかというのは、彫刻と写真をずっとやっていると彫刻と写真の関係性って色々、近いところがあった。例えば、（僕はフィルムで撮影するんですけど、）何かものをパシャって撮って、これがポジだとすれば、一回ネガフィルムに転換されて、さらにそれをプリントする時にまたポジになる。それと彫刻の原理で型取りってあるんですけど、これを型取りしようとするとき「※お酒の一升瓶を例に」、一回外側に粘土とか石膏とかを貼っていったって、中身をパカッと外して、この型をもう一回ポコってやると、これに何を流し込んでも同じ形ができる。これ型取りって彫刻のすごい基本的な作り方の一つです。僕ずっとプラスチックとかも扱ってたんで、それって似てるなと。これ「※一升瓶を写真に撮ること、型取りをしてもものを作るってすごい似てるなと、思っ

他にも、彫刻も写真も光を前提としていて、光があって存在するものだし、とか。

で、そういうことを考えてたりもしたんですけど、もっとストレートに彫刻が写真をそのまま作れたらめっちゃ面白いなっていうか。ズーっと考えて何かできないかなと思ったらふと、プリンターが、水にプリントするってどういうこと？みたいな。写真は絶対紙にプリントされるけれど僕はズーっとそれが嫌で。紙である以上写真は、写真から逃れられないって

うか。キャンバスの上に絵を描いたら、うんーっとまあかなり、ガッてひっついていて引き剥がすのは困難。写真も同じように紙があって、その上にインクだったり印画紙だったりとか科学的な変化があって、それが写真になってる。でも、紙と写真を、引き剥がせないかと。そしたら立体的な写真ができないかと思って。要は水にプリントしたら立体的な写真にもなるし、同時に消えてくし。って感じですね。

今回のこの作品は、ちょうど地震（関西大震災）の頃ですけど僕の姉が二十年前に亡くなったので、その一年前ぐらいの写真を実家で借りてきてスキャンして、あの装置でプリントしています。だからよく見ると、ぼんやり人の影がわかるんですけど、でも、同時に消えてく。っていう結構エモーショナルな作品でもあるし、だけど同時に、なんていうかちょっとこう、自分の家族だから亡くなった人をもう一度再生したいみたいな感覚もあって。

母親が初めてその作品を観た時に、（姉の写真を作品にすることは親に話してなかったんですけど、）長文のメールが来て。僕関西人なんで母親もめちゃくちゃ、僕の五倍ぐらいしゃべるんですけど、メールも超長文で。そこで彼女が言ったのは、「ありがとう」と。

「けいこ(姉)を、わたしたちにとってもあなたにとっても二十年前の出来事だからもうだいぶ前のことだけど、こうやって作品になって、私たちの恵子が今もう一回新しい恵子になって、私の中に今日から存在します」みたいな、すごいおしゃれなことを言ってくれて。僕はそのにすごい安心したし、あー、なんかこれは亡くなった人の写真をただプリントして、ああ消えてく悲しい、だけではなくて、ここにやっぱりもう一回、再生させるような要素があるのかなとはじめて思えたんだよね。っていうのが、今回（展示場に）入ってすぐにドーンとあります。

三十分に一回プリントするので、もしプリンターが動いていなければちょっと時間見ても
らえたら自動で動きます。それで時間が経つにつれて写真が重なっていくので、どんどん
どんどん濃い感じになっていきます。これが二〜三週間ずっと続くという。

「その、お姉さんの写真を水にプリントするっていうこと、ですよね…？その、はじまりと
いうか、それをしようと思ったのってどういう時だった…（んですか？）」

あのね、これは最初に水に(写真を)プリントするっていう機械を考えて、それをできないか
なっているところで考えていて。その時に僕がよく一緒にやってる、技術エンジニアの
素晴らしいチームがいて、(宮島達男さんらの作品とかも、やってる SHIRO というチーム
なんですけど、) そのチームの人と話して「あ、これは実現可能だ」ってなったんです。
ってなると今度の問題は、何の写真をプリントするかっていうものです。色々出たんです

よ。わかりやすいのは例えば国旗とか。いろんな国旗がどんどんプリントされて、それ結構
(形が見えるんですよ。とか、(他にも) もっと色々色彩鮮やかな写真とか、ちっちゃいの
作って試してたんです。でも、今回の新しい作品にも似てるんですけど、**国旗をプリント
するんだったら僕作んなくていいな**と思ったんです。なぜなら、僕の大前提にあるの

が、(地震でもなんでもそうだけど、) **大きなストーリーと、小さなストーリー**って
つもあると思ってる。例えばなんか事件が起きたり災害が起きたりすると、じゃあ何万人
の方がとか、こういう被災があったとか、新聞とかテレビで割と大きなフォーマットで話さ
れる事とがあるんですけど。僕の個人的な自分の経験で話をするとやっぱりそれはすごい個
人の話なんですよ。地震だろうがなんだろうが結局それは僕ら、僕にとっては自分の家族の
話だったし、友人の話だったから、**個人の話**を埋没したくないっていうのが僕すごい強
いんですね。だから、まず自分の個人の話をしなればと思うと、(水に)プリントして消
えていく写真で、けどそれはむしろ永遠に存在できるかもしれないなんて思ってる時に、じ
ゃあ僕が一番水にプリントしたい写真で、立体的に何か、もう一回再現したいものは何か

ってガッツと考えていたらやっぱりお姉ちゃんのことを考えて。けいこ姉ちゃんの写真だったら僕はずっと、実家に帰ってもあるし、ずっと見慣れてるからこそ、この写真が立体化したらいいなっていうことだったんですよ。

だから彼女の写真を立体化するためにあの装置を作ったのではなく、（写真が）立体化する作品を作った時に、何をプリントするかって考えて、彼女の写真を選んだって感じですね。

Lightfigure (12 seconds)

はじめに、キャプションステイトメントより

Lightfigure シリーズは、線香花火に火をつけた瞬間から、消えるまでのプロセスを超長時間露光（長時間、カメラのシャッターを開いて、超微量な光で撮影）している写真作品です。

二〇一五年から二〇一六年にかけて制作し、約一〇〇枚のシリーズで、表面には光を透過する乳白色のアクリル板に、裏からネガフィルムを印刷する方法を用いて、それを大型のライトボックスに入れ、ネガ版のまま鑑賞者が見えるように展示をしました。

2018/8/18 トークアーカイブ

もうひとつ、あいちトリエンナーレでも展示した作品で、線香花火を撮影したLight boxの作品が一つ、写真の作品としてあります。線香花火を大体二百本か三百本ぐらい持ってきて、花火がついた瞬間から真っ暗闇の中でカメラのシャッターを開きっ放しにし、火が消えると同時にシャッターを閉じる。個体差がすごいあって、すぐ消えるやつもあれば結構長く、残るやつもあるじゃないですか。そうすると、一枚のフィルムに、線香花火の一生分が全部定着できる。

You are gone, You are here

はじめに、キャプションステイトメントより

You are gone, You are here という作品は、最初に断熱材で「YOU」という文字を作り、そのあとそれを一度硬化した樹脂で外郭（型）を作ります。

そして今度は中の文字を燃やします。その時に発生する熱で外側の樹脂を溶かしつつ、同時に固めていき、文字の外郭（型）のみを残した作品です。

断熱材の一部はポリウレタンなどの素材で断熱性と共に可燃性も高い素材です。

一方、外郭に用いているポリカプロラクトンという樹脂は、六十度以上の熱で溶け、それ以下になると硬化が始まり、硬いプラスチックになります。

そこで、断熱材で作られた文字に火をつけ、燃やしていきながらその熱を利用して、外側の型だけ残るように文字の型取りを行いました。

「YOU」は燃えて消えても、しかし「YOU」の外側は残ります。

作品ステイトメントより

あるフランス人の友人がこんな話をしてきたことがある。

日本には、我々ヨーロッパ人の求める「永遠性」とは違う「モメンタリズム（瞬間性、刹那性）」というものの価値、美の価値がある。「もののあわれ」という日本語を知った時に、君の作品をより理解した気がしたよ、と。

当時不思議に思ったのは、私の作品は明らかな日本性（ジャポニズム、オリエンタリズム）を意識したことはあまりなく、むしろ意識的に（素材的に）それを避けてきた。にも関わらず、彼がそのことを伝えてきたことに驚いた。

本展示での新作は、「YOU」という文字を型取り、中身を焼いて外側だけ残す、というものだ。この作品に用いた素材の断熱材（発泡スチロール）、熱成形樹脂、YOUという文字、そのどれをとっても日本らしい素材ではない。（日本らしい素材というものが存在するかも怪しいものではあるが）

私は最初からこの作品に、むしろ微かながらでも、希望のようなものを与えたかった。君は死なない、ということ。

たとえこの肉体が減びようとも、「何か」は残っていくはずだと。

たとえその何かが脆く儂く弱いものだとしても、たとえ朽ちていこうとも、外殻のようなものは少しずつ綻びながらも、何らかの形で残っていつてくれるだろうか、と。

そもそも、物事は全て朽ちていくという立場から作品を作ってきた自分にとって、この細かい「希望」はとても不安定で頼りない。本当にわずかな希望にすぎるようなものでむしろ祈りに近い。

ではヨーロッパ人の彼が言ったように、これが「日本的もののあわれ」なのだろうか。

消えていきながらも、しかしそこに何かが宿る、残るといふ考え方が。そこにすぎる何か

私はむしろそこに互いの永遠性の解釈の違いが存在するのではないか、と考えてみる。つまりヨーロッパにおける神の御前においての魂の永遠性と、わたしの考える命の輪廻的な刹那性は違うようであり、実はどこか遠くで似ているのでは、と。

「祈り」とはそういうことなのかもしれない。「You」という文字にしたのもそういうことなのかもしれない。タイトルに『You are gone, You are here』としたのも、そういう「祈り」があったからだ、たとえばそこに神はいなくても。

思えば私は以前から作品のタイトルにHereという単語をたまに登場させてきた。十年以上も昔に車椅子を型取りした作品には『Here is saturated by Emptiness』と付け、本作品も『You are gone, You are here』と付けた。この場合のHereとはその作品の置いてある場所なのか、それともどこか特定の「場所」なのか、と聞かれたこともある。多分、そのどちらも正解だと思う。

きっと私の作品にとってのHereが、全ての人間にとってのHereになれば、と、これもとても脆い希望ではあるが、どこかでそう強く願っているのかもしれない。

今回このMM(M)で、何やろうかって最後の最後まで紆余曲折しながらまあほんとに色々やってたんですけど、今回作ったのは、まず、やったことと言うとシンプルです。

家で使う断熱材っていうのは実はすごく、燃えやすい。意外と知らないけど。この前東京の多摩地区で建設途中のビルが燃えた事件があったんですけど、それということかっというと、建物って鉄骨立ててから断熱材を入れて、そこに石膏ボードを貼って内装作っていくんですけど基本は。（僕も高校生の時に土方の仕事をずっとやってたので、建築の仕事の内容はなんとなくわかるんですが、）多分その事故が起きたのは、鉄骨を組んでいて石膏ボードも貼ってるんですけど、施工やり直しがどっかあったんですよ。だから本来ならばそこから火を使うのは絶対タブーなんだけど、下に、その断熱材貼ってる上から防熱シートを一応貼って鉄骨にもう一回溶接したんですよ。そしたらその火が落ちて、ものすごい燃え広がって何人かの方々が亡くなったっていう事故がありました。もうついこの間ですけれど。

「二〇一八年七月二十六日、東京都多摩市のビル工事現場で火災。四人が死亡、四十人以上が怪我。鉄骨の切断作業中に近くにあった断熱材のウレタンに火花が燃え移って火が出たとみられている。参考：dmenu TOKYO MX NEWS 二〇一八年七月二十七日午前十時

https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/mxtv_news/nation/mxtv_news-

[20180727100751391](https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/mxtv_news/nation/mxtv_news-20180727100751391)（参照二〇一八年八月二十七日）」

それを聞いた時に、まあ僕らは彫刻やっていると発泡が燃える事故多いんですよ。美大でも過去に毎年一人ぐらいやっちゃうんですよ。そのぐらいやっぱ、（断熱材は燃えやすいけれど）意外と知らないっていうか。で、その時期にそれ、僕結構気になっていて。

やっぱりそもそも矛盾がある。断熱材っていう家を、人間を、守るものが、めっちゃ燃えやすいってどうなの、という。でその矛盾はちょっとなんかリテラルな感じがするなと思って、じゃあ、発泡スチロールで何かを作ってそれを別の素材でコーティングする。そしてその発泡スチロールを燃やしてしまえば、（発泡スチロールは）もうすぐにババっと燃えるけど、その外側の、囲ったものは残るんじゃないか。だからこのさっきの写真の理論とすごい近いんですけど、これが発泡スチロールだったら、まず外側を燃えにくい素材で固めて、（中の）発泡スチロールに火をつけたらバツと燃える。そして外側がだけ残る。っていうのを最初に思ったんですよ。ただそれだけだと、別にただ単に型取りをするときにやる行為とあまり変わらないなと思って、それでいろいろ素材を試して、まあ前に使った素材が六〇度以上の熱になると溶けて柔らかくなって、それ以下になると固まるっていう素材「樹脂」なんです。そしたらまず、それを使おうと思って。つまり発泡スチロールで何かを作って、その周りに樹脂を置き発泡スチロールを燃やせば、その樹脂は一瞬溶ける。でも溶けながら同時に固まっていくから、燃えながら外側だけ残っていく。なんか不思議な現象が起きるなっていう。で、試したら結構できそうだったのでそれを、やろうと。

でもまあ形とか色々考えてたんですけど、僕は最近展示ずっとやってて思うのが、僕普段すごいおしゃべりなんですけど作品にすると結構かっこつけちゃってドライな、クールな感じでやっちゃうんですよ。昔から。

「なんででしょうね。」

多分ね、かっこつけなんです。

もう根本的に、うちの母ちゃん曰く（笑）

「母ちゃん曰く（笑）」

だけど、それだとやっぱり本当に伝えたいことが伝わらないとか、なんかおしゃれだねかっこいいねっていう作品になってしまふことが（あって）、（それも嬉しいし自分でも認めてるけど）でもやっぱり本当に伝えたいのは、一番最初に話したような、物は消えてくけど、でも僕はなんかそこに『望み』を感じてて、さっきの、プリンターの作品もそうだけど、消えるけど何か残せるんじゃないか。記憶「ものは、消えるけど、「なんだろう。

瞬間？「瞬間…」

だから今回の作品で言うと、YOUっていう文字を使ったんですけど、ワイ・オー・ユー「あなた、のYOU」「あなた」のYOUですね。「君」のYOU。なんか…（あの作品の形態は）球体でも良かったんですね、あれ別に。四角でも良かった。でも（伝えたいことは色々あるんですけど、）今回MMM来るまでいくつか文字のパターンを考えていて、で、この（那珂湊に）いる間にね、いろんな若い人と、若いって言う僕も若いですけど、いろんな人とこう話したりしてる時にあるきっかけがあって。それすごい印象的だったんですけど、お酒飲んでる時にスタッフの一人の人が話したのは、なんでこういうこと（MMM）やってるのか、とかこれからどうしたいんだみたいな話を聞いている時に、その「死にたくない」「っていうことを言っている人がいて。「死にたくない、生きてることを感じたい」というか、「自分が人間として生き続けたい」っていうことを言ってる人がいて、その感覚は僕もめちゃくちゃ近いというか。

例えば「あなた」って文字があって、その「あなた」ってものが消えたとしても、でも、その瞬間、消えて何か固まった瞬間に、何かそれは生き続けたいみたいな、変な妄想があって。で僕は、だったらYOUって使えば、うーんと、これ全然伝わらないかもしれないんですけどね。すごく伝わらないかもしれないんですけど、「もうちょっと聞きたいです。」その、僕にとってのYOUかもしれない、それはもちろん鑑賞する人を示すと思う、最初は。でもそれは、ひよっとしたら僕の、それこそ亡くなった姉かもしれない

し、僕の家族かもしれない。だけど同時に、見る人は多分、その人それぞれの「YOU」を考えるだろうし、それぞれの「YOU」があって、…で消えてくし文字ももう無くなっちゃったんだけど、でもその外（外郭）が残って、あの外（外郭）がもういつまで続くかわかんないとか思うけど、でも**あの作品がそこにある限り、何かは残るんじゃないか、と。**

そのなんか、さっきも橋口さん[MMMチーフキュレーター]に「You are gone, you are here」っていうタイトルについてちょっと聞かれたんですけど、じゃあhere っていうのはこの場所（那珂湊）限定なのか？とか、now っていうのがついてないからこれはどの時勢の話なのか？とか、とか聞かれて。でも僕は多分ちょっと**時間を超えてる、感じ、**があるというか。プリンター（の作品）もそうだけど、写真が出てきて消えるから、多分その写真として保持されるのはほんとに数分間しかないし、今回の彫刻も、字は消えちゃって、外側がもろい状態でなんとか、もうほんとギリギリ成り立ってるって感じだけど、多分それを見たりすることとか、あそこに（作品が）あるって、思うことは僕にとっては自分の中で想像してる誰かとか、もういなくても、自分の中のどっかにいるし。例えばわかりやすく言えば、亡くなった方がいて、その人はいなくなっても、自分の中でいるじゃないですか絶対。（頭の中に、お盆のこともありました。帰ってくる、という。）それを記憶っていう人もいるし僕の中でもっと自分の中にある、って感じ、そんな感覚に近いかな。たぶん僕にとつての**「あなた」だし、それぞれの人にとっての「あなた」**を、考えてたんですかね。だからすごい不特定多数の「YOU」として、「YOU」っていう字を選んだんですけど。それが、さっき言ったきっかけっていうのは、**生き続けたいっていう言葉が結構僕は強かったから、なんかこの先も消えるかもしれないけどでも、なんか、ここに何かが宿るならそういうことかな。ものは消えるけど生き続ける、**「YOU」はどこかで、どっかで、ある。どっかで、生きる、まあひょっとしたら自分の中にあるみたいな、ことかもしれないですけど、そんな想いで、立体の作品を、つくりました。

「野村さんの言う生き続けるってどういう…」

なんかね、生き続けるって僕もほんとよく考えるんですけど。だって物は消えるし人も死ぬし、で作品も、よくアートってなんかまるで永久に存在しているような体をしてるけど、僕めちやくちちゃんちゃらおかしいと思ってて。じゃあ、どこに作品が存在するかっていうとたぶん、僕がつくってから、誰かが見るまで。まだ会ってない人がいて、例えば。その人が僕の作品観たら、その時間は作品が生き続ける気がするんですよ。なんか、そんな感じですよ。だから作品がなくなっても、作品は生き続けるっていう。極端に言うと。これめっちゃ抽象的な（笑）言い方でうまく言えないですけど、まあうまく言えたらもうたぶん作品つくってないですけど。感覚で言うと、その、永遠みたいな感じはあるし、あの世この世って僕はあるまいないっていうか。うん。過去未来っていうのもあんまない。今、って言われれば今、でしよって言うしかないんだけど、たぶん今が永遠にずっと続いていくような、感じかな。

アート、現代美術とは何か？

「ちなみに、ちょっと脱線しちゃうんですけど、たぶん、そもそもアートって何みたいなのかって、みんな。今写真と彫刻っていう話が前提にあったんですけど、写真のことわかんないし、彫刻のことわかんないし、たぶん、その感覚、わかんない。（確かに、そうですよね）アートってなにか、なんで写真と彫刻だったのか、とか（はい、はい、確かに）」

アートってなに？確かに今回いる間も学生の人に聞かれたりしたんだけど、

「私は、アートとか美術っていうと今まではすごい綺麗なものとか、装飾？とか色とか、なんだろう、あとはピカソが、ピカソのことあんまりわかんないけど、めっちゃ爆発してるとか、なんかすごい、美術の教科書とか読んでると、知識としてそういうイメージがあるけど、実際に作ってる人、が作家さんとして」

アートは何か？ってめっちゃ簡単。これは僕の作品説明するより超簡単。

アートっていうのは、えっと、たった二つだけルールがあります。だからもし誰か、友達とかにアートってなんだろうねって聞かれたりとか、もしくはこれってアートなの？って聞かれた時、すぐに答えられると思います、皆さん。これを知っとけば（笑）

1、アートのもう絶対的、1個目のルール。

「めっちゃ整理されてる（笑）」

1個目。アートは、**アートにおいては何をやってもいい。**

これ何をやってもいいってどういうことかって言うと、ほんっとの意味で何をやってもいいです。たぶんなんか、殺人、以外とか、そういう暴行以外って言う人もいるけど、中には過去にそういう殺人に近い行為が、美術として表現されたこともあるので。ほんっとの意味でアートって言えば、何をやってもいいです。別に、今僕が逆立ちしてもしくはなんか、こうやって5時間ぐらい立ってたとしても。「※ポーズを取って固まる」これもアートみたいな。

なんか変な空気が流れたけど。(笑) これもアート。つまりアートにおいては何をやってもいい。まず大前提の絶対的ルール。

で二つ目のルール。これもすごく大事。誰かがやったものは、アートではない。正確に言うと、現代美術ではないっていう。誰かが、例えば僕がこれね、この行為がすげーアートだと思ってる言っても、超アートだーみたいになってるけど、大抵この何千年の歴史において大抵誰かがやってるんですよ。

(「いますね。いますいます。」 こういう人でしょ? 「イギリスの美術館で、ズーっと展示中ずーっと」)

僕知らなかったけど、ほんとにそんなレベルにいるんですよ。今、適当にやったけど、ほんとにいるんですそのくらい。何故なら世界は広いし、アートの歴史はそれこそラスコーの壁画っていう、人間がウホウホ言ってた時洞窟に描いてた絵から始まるぐらい歴史はほんとに長いので、大抵思いついたことは(誰かが)やってるんです。だけど、アートの絶対的なルールとして誰かがやったことはやらなければいいし、逆に言うと、似ててもいいから自分だけのルールを探せばいい。例えば方法論が似てるけど内容が違うとか。逆に、内容は似てるかもしれないけど方法論は全く違うとか。なんでもいいんだけど。とにかくこの二つが、アートの定義。もう僕の中でっていうか、まあでもこれ基本的に世界共通のルールだと思っただけ。

「どうしてアートは何をやってもいいんですか?」

それめっちゃいいね! アートはなんて何やってもいいか。これもよく批判的な意味でもある話だけど、例えば、これもイギリスだったと思うんですけど、あるアーティストが何十年分かの自分のウンチをカンカン(缶)に閉じ込めて、倉庫にずっと保存してました。「※ピエロ・マンゾーニ」そんなあほちゃうん、と思うけどほんとにやってた。と、みんな

は、思ってる。ここがポイントなんですけど。で、そのウンチを閉じ込めた缶詰を、ある美術館が買い取ろうとしました。何故なら、アートの定義は1、何をしてもいい。2、誰かがやってなければいい。つまり、誰もウンチをカンカンに閉じ込めた人はいなかったので、美術館が買い上げました。結構な値段で。すると、その地元の市民たちが、怒って運動を起こしました。俺らの税金を使って、なんで知らねえやつのウンチ買わなきゃいけないんだってものすごく揉めました。で、これは有名な話なんですけど、でもこの話のミソは、その缶を開けた人は誰もいないですよ。カンカンに砂が入っているかもしれない。ウンチかどうかも分からない。って考えたら急に、その大量のカンカンの中身が実は全然違うものかもしれない、とか。人は想像しだす。だけど一般的に何も知らない人は、「ウンチ買った。あほらしい」ってなるけど、でもこれはウンチに見えるけど実は違うものかもしれないとか、もっと想像力が働きかけたら、なにか違うものに見えてくるかもしれないとか。で、何が言いたいかって言うと、アートがなんて何やってもいいかっていうのは、うーんと、別にウンチをカンカンに閉じ込めろってわけではなく。もう、あのねー、**人間は、すごく、愚かです。大前提として。**人間はすごく知的に見えるけど、やっぱり地球全体で見るとすごく愚かだなと僕は思います。どんだけ愚かかって言うと、自分たちが住んでる星とかね例えば。地域でもいいけど。どんどん汚すし、自分たちが子孫増やしたいがために他の動物をどんどん殺してってしまうし。それが食べるためだけではなく、装飾のためとか過剰のためにやってしまう。一番愚かなのは、人間同士、種と種どうしが殺しあったりすること。それも特段、特に具体的な何か、目的があるように僕にはあまり写らないというのものもあるし。全くもって愚かだなと思う。そして、**人間は、すごく愚も持つてる。**さっき言ったみたいに、誰か人を蹴落としたり、苦しめたりすること。**だけど、全く同じぐらいの分量で、人間は愛も持つてる。**愛って何かかっていうとたぶん、誰かのことを想うこと。理想を言うとき自分を犠牲にしても誰かを大切にしたい。なんか、僕は今腰痛いけど、誰かにビール注ぎましようかみたい。たぶんこれも愛。人は誰かと寄り添いたいし、誰かに理解されたい。これ

は愛。っていうようにすごく愚かな部分と、すごく、他の動物は持っていないそういう思いやりっていうか愛っていうものを持って。で、これ超個人的な意見ですけど、これを、**伝える術が、なかなか、ない。この矛盾を。**愛は伝えるべきだし、愛は人に与えるものだってずっと言ってるけど。でも、その愛の裏には、おんなじ時間で、人は人を殺してるし、知らないところで誰かが人を貶めていて、この矛盾を表現するには、ね、そもそもそれすごい矛盾なんだけど、**この矛盾を表現するにはやっぱり、小説とか戯曲とか現代美術でもなんでもいいけど、そういう人間の愚かさとか愛情とかを、全部、受け止めて、出すしかない。**ってなったら、もう方法論とか云々以前にもう人間だから、人間の持つてるなんかすべてで、**表現しないと。**それでも追いつかないかもしれないけど。でも僕らは幸い、人間だから。人間のためのアートはつくれる。これが、例えば一匹のアリンコさんのためにアート作れって言ったらすごく難しい。僕らは、アリンコじゃないから。でもアリンコには、アリンコのアートがあるかもしれない。僕らが知らないだけで。っていうように、答えになってないかもしれないけど、なんでアートが何をやってもいいかって言うと、**逆に言えば、あらゆること総動員してでも、この、人間のそもその矛盾**というか、**死ぬのに、死なないようにするとか、忘れるのに、忘れないようにする**とか、**その矛盾を表現するには、もう、それだけのことでしか、できない**っていうか。だからアートは人によっちゃすごくバカみたいに思える。例えばウンチ閉じ込めたりとか、便器逆さまに置いてうわぁこれアートだって言ったり、子供の落書きみたいに見えてこれがアートだって言ったりとかそれは、ひょっとしたらその人にとってはすごい人間の愚かな部分にしか見えないかもしれない。その行為が、「ただウンチしてるじゃん」みたいな。だけど、別の人にとってはすごく尊い物にも見えたりする。だから批判もされるし、逆に、歴史的に残そうとする人たちもいる。

MMM

でも僕は、これももうすごく言いたいけど、アートはいいことって。それこそこのMMMとかそんなんですけど、アートは、いいこと。(笑) 何故なら、さっき殺人がアートになり得るかって話をちょっとしたけれど、なんか、それはかなりエクストリームな例なので。でもアートは、今回これ(MMM)は町興しも兼ねてもう十年やってるイベントで、それに悪い要素は何一つない。いや僕にとってね。だって大変だしみんな。いろんな人が集まって、それこそ諸先輩方の指導を受け我々は。大工さんたちの指導を受け、やらしていただいてますけど。たまにトラック借りて怒られ、「一回(笑)」梯子戻せて怒られ、勝手にケープル持ってくなくなって怒られ、ちゃんとクリーニング屋さんには挨拶に行ってみんな。ってやってますけど。でも、**根本的にやってることは何か物を作ったり人を集めてみんなでこうやってお酒飲んでワイワイしよう**と。そこにはほんとに、悪いことが、僕には見当たらない。誰かが誰かを貶めてるようにも見えないこのイベントが(笑) これが何か人種差別の人たちの集まりにも思えないし、むしろ人と人が繋がろうとして、それこそ人と物とか、人が人を愛そうとするきっかけかもしれないし、学生の人たちはここで恋も生まれるかもしれないしね。それはほんとに創造的なことで。なんか、それはめっちゃ伝えたいし、伝えたいって僕が伝えるようなことじゃないかもしれないけど、こんないいこと、しかも十年やってるのがすごいっていうか、あの、ほんとにすごい。なかなかできないし、それをみんなでこうやってやってるっていうのは、めっちゃいいこと。だから、悩んだりしても(笑)、大変だと思うけどみんな、やってるのは。夏は暑いしこれからもっと大変だと思うけど。けど、**全然人に自慢できること**っていうか。一つ一つの作品やいろんなアーティストがいて、いろんな作品があるけど、それは別に理解しなくてもいいかもしれない。ああ私いいことしてるって、親に言えるし、友達に自慢できることだって僕は思う。もしそれを誰かが否定したら俺はもう全力で超いいことだからって言いに行く。僕の作品なんてたぶん見たらわかると思うけど、結構見方によっちゃおどろおどろしいし、重く見えるかもしれないし、

僕はいいことしてる感覚はないけどでもこれが、悪いことだとは全然思わないっていうか、うん。っていうのはすごい、このMMMの展示に、来る度に思う、ことかな。

「悪いことしようと思ってるって、いない…」

いやなんか、だってみんな言うんですよ。それこそ今日あなた「※MMM学生スタッフ」の弟さんが来てて、彼がすごいピュアだって、別のピュアが言うんですよ。「一回笑」俺おかしくて。いやいや、お前もピュアだぜって。で他の人もみんな言うんですよ。「いやあの子めっちゃいい人なんですよー」って言うてるお前がめっちゃいいやつだからねって。一人の子は色々頑張ってるって、うまくいかなかったりして、こう、どうしようかなーっていう時とかあるとして、でもどうにかしたいんですよーとかって言うてるんだけどいやいややって。あの、あなた大前提としてまずすごいいい人だからねって。このこと(MMM)もめっちゃいいことやってるからねっていう。だからなんか、僕はすごいちゃんちゃんおかしいんですよ。みんな言うてるから。みんなすぐあの人超純粋ですよねーって言うけど言うてるお前が超純粋だよっていう。それはほんとみんなちょっと恥ずかしいぐらいわかってた方がいい。それは素晴らしいことだし、そもそもやってることがいいことっていう。だから人が集まってるし、でもそんな(なんかいいことやろう、みたいな)前提もないと思うしみんなそもそも。いいことやりに来ようって思ってるでしょ、全然。それが超すごいっていう。なんか、ひょっとしたら夏休みちょっとやるかってぐらいのノリで来てるけど、それって実はすごいっていう。だって、ね。一週間家でずっとネットしててもいいわけだし。別に、実家帰ってグダグダテレビ見てもいいんだけど、こうやって人と会おうとしたりとか、何か手伝おうっていうのは、ボランティアって言葉を超えてなんか、すごいなって思いますね。僕らなんかよりよっぽどすごい。僕らは自分の表現の場所があって、ありがたいから自分の表現を持ってくるけど、その場所を創ってくれるっていう、こと。これはもう僕言いたかったです、すご。みんな、なんかグダグダ悩んだりとかするから。色々考えたり、どう

しょうーとか大変とか思うけど、そんなもんはね、こんないいことやってるんだから。って。思いました！これは俺言いたかったです。(笑)

影響を受けたアーティスト

「なんか、質問とか、作品についても今の話でも」

あ、はい。どうぞ。

「影響を受けたアーティストとかいるんですか？」

影響、ああいいですね、シンプルで。いますいます。

えーっとまず大前提で、言うのも恥ずかしいんですけど、**父親がいます**。はい。父親っていうのは、あのちょっと変わった人で子供のお絵描き教室をずっとやってるんですけど、しかも相変わらず自分の作品をつくって、シルクスクリーンとかやってるんですけど、結構ミニマルな感じの。で、僕はもう一番の電話仲間というか、だいたい週に一回くらい電話してお互いの作品を報告しあうんですよ。いいところは褒めあう。ダメなところはちゃんと批評するっていう。今回(WMM)に来てる間ももうすでに二回くらい電話してて、父親が最近つくった作品を写真で送ってきてて、かっこよかったんであれめっちゃかっこいいじゃーんとかって言うってたら、じゃあ君今何やってるのって。で、今回の新しい文字の作品の話してたらなんか、「んー」みたいな(笑)だからまず、ほんとの最初に父親があって、子供の時から。父親なんですけど、僕にとっては一番影響を受けましたね。彼の持ってる画集とか子供の時には知らないけれどセザンヌの画集見てたりとか、よくわかんないけどなんかゴッホの絵とか見てたので、そういう影響は大きい。あと、今の質問に対して、割と教科書的な答えで言うと僕は**ポストミニマリズム**、ちょっとマニアックな話ですけど、六十年代以降、まあ七十年代から八十年代のポストミニマリズムって言われる人たちの影響はたぶんすごく、影響受けたと思います。**エヴァ・ヘス**とか。あと**フェリックス・ゴンザレス・トレス**、ゲイの方です。Eで亡くなった恋人の体重と同じ分のキャンディを敷き詰めたっていう人なんです。彼とかはほんとに影響を受けたと思います。あと日本人で言うと、僕小学校の時に遠足で**岡本太郎**さんの太陽の塔、(出身地が神戸で)大阪に近いので、あれを見た時に、僕、もうこれもちっと恥ずかしいんですけどちょっとおしっこ漏らしちゃって、もう震えが止まらなかったんですよ。多分、今だと説明できるけれど。当時は全然意味わから

なかった。それまでもビルとか見てるから大きいものは見るはずなのに、**その、理由のない巨大なものにもすごいショックだったんですよ。**別にあってオブジェクトだから、避雷針とかになるわけではなく、電波飛ばしてるわけではなく。だから先生に、なんか、「これなんですか。これどうしたらいいんだろう」って言ったら先生が笑いながら、じゃあ触って来なよって言って、で僕すごいドキドキしながら近づいて行って触ったらコンクリートですごい冷やっとしてたんですけど。そしたらその魔法が溶けて、安心して「ああコンクリートなんだ、つまんねー」と思ったんですけど。その、近づくまでは、小学校多分二年生くらいだったから、**宇宙から来た、巨大ななんかだっという感じでした。**だから岡本太郎、『太陽の塔』は、多分相当違う角度で影響を受けてると思いますね。まあその後でいろんなのがたくさんありますけど、大きいのは父親と岡本太郎と、あとそのポスト・ミニマリズムのアーティスト、っていうのは、はい、これガチです。(笑) ありがとうございます、大丈夫でしたか？

「大丈夫です、大丈夫です」

良かった、良かった。

「野村さん自身のことを聞きたいなと思って、」
めっちゃ俺の話してませんでしたか？

「してましたけど、いやアートは何かとかなんで」

ああ、まあ確かに確かに。

「そういう、なんかそういうのを聞きたいなって。そういう風にちょっと思ったんですけどまあ、父親、岡本太郎、あと**マーク・ロス**も結構大きい影響受けてると思うんですけど、河村記念美術館で、初めて見て。もし行ったことない人いたら、河村記念美術館って千葉に（あるので）。ちょっと遠いんですけど、素晴らしい美術館で（す。）

